ライフケアガーデン湘南　特定2F

症　例　概　要　利用者　：兄　80代　男性　要介護1
妹　70代　女性　要介護1

利用期間：2022年12月　～　現在

既往歴　：兄　脊椎小脳変性症
妹　脊椎小脳変性症

経　　過　　：同じ神経難病の疾病を抱えたご兄妹が自宅での生活が限界となり2022年12月に当ホームに入居。拘りが強く被害妄想や不信感を抱きやすいご兄妹との信頼関係をユマニチュードケアを実践しながら築き上げADL・QOL共に向上した症例

内　　容

同じ疾病を抱えた二人は、長い間兄妹で支え合い自宅で生活をされていました。疾病の進行による体力の低下で臥床して過ごす時間も増え、二人きりの生活に限界を感じて入居を決断されました。

営業担当によると、ご自宅は足を踏み入れる場所がないほど物が散乱し腐敗臭もあり、自分達で清掃するのはおろか訪問ヘルパーの介入を拒否されていた状況であったとの事でした。

入居直後は信頼関係が築けていないため介入が難しい状況で、持ち込み荷物の中には、10年以上前の缶詰や期限切れの食品、洗濯されていない衣服や寝具などが多くあり、虫が湧いて悪臭が酷く居室に長時間の滞在が難しい程でした。

また食事に対しての拘りが強く献立に細かいご要望がありました。管理栄養士と介護士で話しを伺い、食品の買い付けやご要望に応じた食材を追加した献立にする対応をしました。

ケアの中でも自身の意思と反した内容の対応をした職員を部屋に入れて欲しくないと言われ慎重な対応が必要でした。営業担当やケアマネージャー、介護士と看護師、アシスタント職員でユマニチュードケア（特に話す・触れる）を統一し、不安の軽減に努め信頼関係を築き上げ少しずつ居室の片付けに取りかかる事が出来てきました。

このようにひとつずつ確実なケアの積み重ねで、表情や笑顔が増えコミュニケーションが図れるようになり、居室の整理整頓と不要品の廃棄、衣服や寝具の洗濯が進み3ヶ月ほどかかりましたが正常な環境を取り戻していきました。

外出企画や日々の体操、レクリエーションにも参加され、ご要望に応じたお散歩を行いQOLが向上していきました。今では自発的に歩行訓練を希望され、付き添いの対応にてADLも向上しています。「皆さんのお陰で、生活できています。感謝します。」とお言葉を頂けました。

これからも、当ホームの職員が第二の家族となり愛情を持って親身な対応で心豊かな生活が出来る様努めて行きたいと思います。